

第 245 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

部会長 村山元理

日時 令和元（2019）年 9 月 3 0 日（月） 18:00-20:00

場所 学士会館 305号室（東京都千代田区神田錦町3-28）

参加者 吉田智美さん（初参加）、緒賀、井上、望月、山本、古山、村山 7名

欠席届 新川、宇佐神、長塚、辻井（休会中）

研究報告 山本 「日本の近代国家に寄与した儒教・東洋実践哲学（陽明学）の系譜と日本的経営との関わり～KAEの原理とその実践～」

配布資料 原稿＋参考文献、その他多数の参考資料（PDFファイル化して保存）

報告内容：陽明学の思想の系譜を解説し、日本の経営思想の根幹に陽明学の思想あること力説した内容。西洋哲学の思想が経営倫理学のバックボーンになっているが、東洋思想に基づく、利益中心ではなく、人間を大切にする経営思想が渋沢栄一以来あることを振り返るべきであるとの趣旨。西洋思想、東洋思想の流れについても説明し、山城経営学の KAE になぜ practice が含まれていないのかが問われた。また「野中郁次郎 私の履歴書」（日経 2019 年 9 月）の記事も引用され、暗黙知の情念は東洋思想と関連していることも指摘された。

質疑応答

望月：陽明学の受容は善だけでなく悪用の側面もある。陽明学だけが唯一の影響とは言えない。

緒賀：陽明学と朱子学は、根幹は同じものである。

古山：陽明学に孝が中心概念となり、朱子学には考に重点が置かれていない理由は何か。

中国思想は秦での儒者の弾圧のあと、新たな学問が生まれていない。中国思想は儒教の焼き直しが続いた理由はなにか。

吉田：イノベーションを起こすという実践には狂の側面が必要なこと、知性だけではないことが自覚できた。

井上：渋沢栄一の商業教育に関して書いた。徳育に関する論説では、中江藤樹、熊沢蕃山が引用されている。

村山：渋沢は三島中洲から陽明学を学んだのは後の時代で、青年期に水戸学の影響を受けた尾高淳忠から大きな影響を受けている。山城経営学の KAE に関する図解の妥当性は？

今後の予定

10 月休み

11 月 25 日（月） 18:00-20:00

宇佐神（案）「日猶同祖論」

古山 「日猶同祖論」、一神教の起源について

場所：企業家ミュージアム（確定）

（東京都千代田区外神田 2-2-19, 2F）<http://www.csm.or.jp/wp/access/>